

日本情報科教育学会 3周年記念フォーラム開催報告

聖徳大学短期大学部 総合文化学科 非常勤講師 岡本 尚志

1. はじめに

日本情報科教育学会は、2007年12月に情報科教育を実践する教員や研究者が集まり設立され、この3周年を祝した記念フォーラムが開催された。

今回の記念フォーラムでは、文部科学省が推進している「21世紀にふさわしい学校教育の実現」を目指し、「『情報化』教育の質保障・質向上」をキーワードとして、表1のプログラムに沿いながら行われた。

招待講演、パネルディスカッション、また、情報処理学会と日本情報科教育学会の2つの学会が情報科教育で初めて連携したフォーラムとしたスペシャル対談の様子を、本稿で報告する。

2. 開会挨拶

最初に、本学会会長である岡本敏雄先生が、開会にあたり、情報教育の新たな課題として、大学入試、教師の指導力、評価基準、他教科との関連性、学校施設・設備、国際比較など多岐に渡り問題点が挙げられている中で、情報教育とは知識社会における国策であり、新しい人材養成であることを認識すべきであると述べられた。

また、英国の義務教育修了資格（GCSE）を例に挙げられ、ICT科目がほとんどの学校で必修に近い科目となっており、将来の日本の情報科教育のカリキュラムとして、非常に参考になるとの説明があった。

最後に、このような問題点を学会やフォーラムを通じて議論を継続し、日本の情報力・国力を高めることにより、日本の情報教育をよりよい内容にしていきたいと締めくくられた。

表1 記念フォーラムの日程とプログラム

日時：2010年12月23日（木：祝日） 13：00～16：30	
場所：機械振興会館 地下3F会議室（B3-9）	
主催：日本情報科教育学会	
13：00	開会
13：05 ～13：35	招待講演 齋藤晴加 (文部科学省生涯学習政策局参事官)
13：40 ～14：40	スペシャル対談 相澤正俊 (日本電気株式会社特別顧問・前副社長) 白鳥則郎 (東北大学・情報処理学会会長) 岡本敏雄 (電気通信大学大学院・本学会会長)
15：00 ～16：20	パネルディスカッション パネリスト 小泉力一 (尚美学園大学) 松原伸一 (滋賀大学) 石田照幸 (経済産業省商務情報政策局) 天良和男 (東京都立日比谷高等学校) 指定討論者 相澤正俊 (日本電気株式会社特別顧問・前副社長) 白鳥則郎 (東北大学・情報処理学会会長) 岡本敏雄 (電気通信大学大学院・本学会会長)
16：20	閉会
17：20～	懇親会

3. 招待講演

次に、文部科学省の齋藤晴加参事官より、「学びのイノベーション実現に向けて」と題した講演が行われた。まず、「学校教育の情報化に関する懇談会」の開催で得られた「教育の情報化ビジョ



写真1 招待講演の様子



写真2 相澤正俊NEC特別顧問の講演

ン(骨子)」について、全7章をポイントごとに説明された。現在は、引き続き、各3つのワーキンググループの検討結果を踏まえて「教育の情報化ビジョン」策定に向けて検討中であるとの説明があった。

4. スペシャル対談

テーマ：情報通信技術と情報科教育
日本復活のキーストーン

～「日はまた昇る」か～

「時代の巡り合わせで体験したIT産業の
イノベーションと今後のIT産業への展望
～情報科への期待を込めて」

相澤正俊(日本電気株式会社特別顧問・前副社長)

「21世紀をより良く生きるために
—国語・算数・「情報」—

白鳥則郎(東北大学・情報処理学会会長)

「情報科教育学の構築をめざして」

岡本敏雄(電気通信大学大学院・本学会会長)

最初に、日本電気株式会社の相澤正俊特別顧問からは、メインフレーム時代、PC時代、オープン時代、クラウド時代へのITトレンドの変遷と、ご自身の担当業務を重ね合わせて説明された。「日はまた昇るか」の問いには、産業界・教育界

を含め、官民をあげた総合的な取り組みが必要とした上で、すべての基本は人材の発掘・育成にかかっており、人材像の基本は「情熱」と「執念」であると述べられた。「情報化」教育に関する期待と提言として、必修教育としてのさらなる充実、IT産業界の担い手を教育する人達へより実践的な教育の充実、創造的・独創的な発想の育成、産官学が連携の上で技術・資格を持つものが正しく評価されるしくみを作るべきとの提言があった。

続いて、本年創立50周年を迎える情報処理学会より、白鳥則郎会長の講演が行われた。教員の人材不足や大学入試科目対象外であること、「情報」への理解不足である点を挙げられ、教科「情報」が十分に教えられていない現状を説明された。また、児童や生徒・学生達が将来の情報処理の夢を「みない」「語らない」「創らない」のは、情報処理分野の責任として受け止め、産業界・教育界・学术界が連携し、この実現を果たす必要があると説かれた。情報処理学会では、平成10年に情報処理教育委員会を設置し、総合学習や技術・家庭とは別に「情報」の時間を導入すべきであり、

- (1) 高校での情報教育
- (2) 大学での情報教育
- (3) 小・中学校での情報教育

～「読み書き、そろばん、『情報』」～

を中期計画として打ち出したことに触れ、世界のトップを目指すのであれば、学習基盤をしっかりと養成するために、小学校から教育すべきである



写真3 白鳥則郎情報処理学会会長の講演



写真4 スペシャル対談会場の様子

と提言された。

岡本敏雄本学会会長より、小中高の連携を必須条件とする戦略を仮定した場合に、どのような障害があるかという問題提議がなされ、授業コマ数の確保や各学年での到達進度、「何をどう教えるか」などさまざまな意見が交換され、白熱した議論が交わされた。

また、産業界からの招待者が珍しいこともあり、会場からは「産業界が教育界へ協賛できる具体的な内容とは？」など活発な意見も出された。

5. パネルディスカッション

はじめに、司会である西野先生より、テーマでもある新しい学力を身につけるために、ICT活用能力について情報や情報手段そのものに関する学習内容および情報科教育・情報学教育として、どのようにどういうカリキュラムで望めばよいのか、という問いかけの後、各パネリストの講演が始まった。

テーマ：新しい学力を身につけるための
「情報科」の役割・課題

司会：西野和典（九州工業大学）

パネリスト：

「学習指導要領改訂と情報科教育の質の保証
～全国調査の結果とそこから見える課題～」

小泉力一（尚美学園大学）

「教員養成の立場から「情報科」教育の質保証・質向上のためにやるべきことは」

松原伸一（滋賀大学）

「経済産業省が進める2つの人材育成政策から
みた高校教育に期待するもの」

石田照幸（経済産業省商務情報政策局）

「『情報科』教育の質保証・質向上における
現場で抱える問題点と解決策」

天良和男（東京都立日比谷高等学校）

指定討論者：

相澤正俊（日本電気株式会社特別顧問・前副社長）

白鳥則郎（東北大学・情報処理学会会長）

岡本敏雄（電気通信大学大学院・本学会会長）

小泉先生からは、経済産業省「情報大航海プロジェクト」事業の一環として、「『情報大航海時代』における制度的課題に対する高等学校等における情報教育の実態調査」によるアンケート調査結果を、さらに普通高校に絞って再分析された結果が紹介された。なかでも興味深かったのは、情報科の授業内容を24のテーマに分類し、「教えている」「重要と考えている」「指導する自信がある」という質問に3択で回答してもらった結果、特に「指導する自信がある」については、専任教員と兼任教員の違いですべてのテーマに有意差ありとの結果が報告され、「専任して教科指導することが重要であり、情報科だからこそ専門性が必要なのでは」と結ばれた。

松原先生からは、過去10年を振り返り、世界は



写真5 パネリストの先生方

もとより他のアジア諸国からも日本の経済的地位が下落していることへの解決策として、教育への十分な投資やカリキュラムの充実が必須であり、学力向上には、初等・中等・高等教育における一貫した教育の充実と、「情報科教育（教育内容）」と「情報化教育（教育方針）」の2つの情報教育を中心とすることが重要だと説明された。また、教員養成の立場より、教科「情報」のカリキュラム開発に際し、各学会との連携が不可欠な日本教育大学協会（教大協）に「情報部門」がないことから、教科「情報」に関わる機関・組織・学会等が連携しあい、情報学教育の推進に関わる調査・研究を行うための「情報学教育推進特別委員会」の発足を紹介され、文理融合の情報学教育の推進を行っていききたいと述べられた。

続いて、石田氏からは、最初に産学連携による高度IT人材育成の取り組みについて、産学マッチング体制の構築・検証および実践的講座の紹介があった。次に、2006年より経済産業省が提唱している『『社会人基礎力』（「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」3つの能力/12の能力要素）の取り組みから見た求められる高校教育』と題したアンケート調査の結果より、「チームワーク力」と「コミュニケーション力」について、学生自身はすでに身に付けている能力と考えているのに対し、企業が学生に対して不足していると感じている学生の能力、大学側からみた学生に身に付けてほしい能力として一致したとの報告があった。

最後に、天良先生からは、高校現場の立場より、中学・高校での達成度のバラツキがあり、全国的な達成度を測るしくみが整備されていないことや、新課程中学「技術」の情報領域の減少に対応しつつ質保証・質向上のためには2単位では厳しいのではないかなど、教科「情報」の現状を含めた報告がなされた。そして、以下の5つの提案があった。

- ・ 質保証のために、大学入試での出題など学力測定方法の検討
- ・ 実践事例を用いた問題解決や科学的な理解を深める教材開発の推進
- ・ 質保証・質向上のための次期教育課程の検討
- ・ 質保証・質向上のため、パソコン教室以外に校内の情報管理業務など、本来分掌以外の業務との「仕事の仕分け」
- ・ コンソーシアム組織など、学校・学会・企業・市民・行政・政治の枠を越えた連携の検討

6. おわりに

パネルディスカッションが終了しても白熱した議論が続き、懇親会まで持ち越され継続したが、年末の多忙な時期に、また、休日にもかかわらず、全国から各先生・関係者の方々がこの記念フォーラムに集まられたことには、熱意や執念を超えた「魂」に匹敵する力を感じた。

また、このような集いにより互いに研鑽しあうことで、この学会の益々の繁栄を心から願い、将来の日本の情報教育の発展に寄与していきたいと考える。



写真6 会場近辺の東京タワー